

省電力変圧器の 本格受注開始

治部電機

治部電機（大阪市淀川区、治部健社長、06・6392・9121）は、産業設備機械用にあるモルファス金属製コアを採用した変圧器の本格受注を始めた。従来の電磁鋼板の変圧器に比べ、最

大で待機電力を6分の1に抑えられる。太陽光発電向け無停電電源設備や電気自動車（EV）の給電設備などに広く採用を働きかけていく。3年後をめどに受注する変圧器の約6割をアモルファス型に置き換える。

普及に向け三相タイプの皮相電力50キロワット用3台と、一相タイプの同キロワット用1台のアモルファス製変圧器計4台をレンタルする。量産体制を2月までに整え、受注から3―5日間で生産する。変圧器の価格は一般変圧器に比べ1―2割程度高くなる見込み。

日立金属が2005年に開発したアモルファス金属材料を活用。一般的な電磁鋼板の変圧器に比べて、産業設備機械の待機電力が4分の1から6分の1と損失が小さく、年間電気代を約半分に抑えられる。